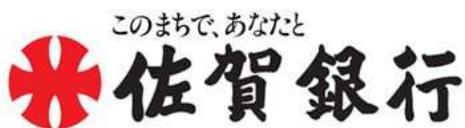


THE BANK OF SAGA NEWS RELEASE



2026年1月29日

「第35回 佐賀銀行文化財団新人賞」の決定について

一般財団法人 佐賀銀行文化財団（理事長 坂井 秀明）は、「第35回 佐賀銀行文化財団新人賞」を下記の2名の方に贈呈することに決定いたしました。

受賞者、内容等は下記のとおりです。

記



1. 受賞者： 愛野史香さま 33歳 小説
澤山大亮さま 45歳 陶芸

(五十音順)

2. 内容： 正賞 表彰盾
副賞 賞金100万円

3. 贈呈式： 日時 2026年2月13日（金）午後1時00分
場所 佐賀銀行本店8階大会議室

以上

《本件に関するお問い合わせ先》

一般財団法人 佐賀銀行文化財団（佐賀銀行本店内）

担当：志佐・田中

TEL 0952(25)1620

<https://www.sagabank.co.jp>

あいの ふみか
愛野 史香 様

年齢：33歳 出身：嬉野市 現在：嬉野市在住
ジャンル：小説

1. 経歴

1992年嬉野市に生まれる。福岡大学薬学部卒。現在、県内で薬剤師として勤務しながら小説を執筆。「あの日の風を描く」が2024年第16回角川春樹小説賞を受賞。2025年7月には第2作の小説「天使と歌う」を執筆。

2. 主な受賞歴

2024年第16回角川春樹小説賞を受賞

3. 推薦理由

薬剤師として勤めながら小説を執筆する「二刀流」で、角川春樹小説賞を受賞。

受賞作の「あの日の風を描く」は、博物館の文化財修復作業という、目に触れる機会が少なく地味な題材ながら、深い取材力と丁寧な描写で読者の想像力を掻き立てる作品である。

物語は、挫折を経験して休学中の美術大学の主人公が、亡き父が力を注いでいた「絵画（ふすま絵）の修復作業」に携わることになり、その過程で成長していく姿には読者が前向きになれる作品である。

受賞後、2作目の作品「天使と歌う」を発表し、「二刀流」で創作に挑む姿勢は、佐賀県で文化芸術の創作に励む若い人たちに希望を与える存在である。

また執筆にあたっては、時間を見つけてスマホを駆使して描くという二刀流としてタイプも考えながらの作品づくりは現代の執筆スタイルである。

愛野さんは今後の佐賀県の文芸界をけん引する存在になってもらいたい存在であり、今後更なる活躍が期待される。

4. 愛野 史香 様



©角川春樹事務所





さわやま だいすけ
澤山 大亮 様

年齢：45歳 出身：有田町 現在：有田町在住

ジャンル：陶芸

1. 経歴

1980年 佐賀県有田町に生まれる

1999年 佐賀県立有田工業高等学校セラミック科卒業

2003年 九州産業大学芸術学部卒業

2006年 佐賀県立有田工業高等学校セラミック科教諭となる

現在 日本工芸会準会員 有田陶芸協会会員

佐賀県立有田工業高等学校セラミック科教諭として勤務

2. 主な受賞歴

佐賀県展「佐賀県知事賞（工芸第一席）」「NBC ラジオ佐賀賞」

有田国際陶磁展「読売新聞社賞」

2021年 第71回 佐賀県美術展覧会 佐賀県知事賞 大賞

2022年 第50回 伝統工芸陶芸部会展 日本セラミックス協会賞

2023年 第119回 有田国際陶磁展 第一位 文部科学大臣賞

3. 推薦理由

澤山氏は、佐賀県立有田工業高等学校セラミック科を卒業後、大学でも陶芸を学ぶ環境を選び、九州産業大学芸術学部で、梶原茂正氏（九州産業大学名誉教授）に師事した。天目による陶芸作品づくりをその頃から追及している。その後、母校である有田工業高等学校セラミック科で教職につきながら、自身の作品づくりを行っている。

基本的なろくろの技術は、有田の伝統のものを体得しつつ、表現の面では光沢のある銀砂や、光沢をおさえた釉調などを線彫りにより、天目の重々しさを払拭し、洗練されたものを生み出している。今後更なる活躍が期待される。

4. 澤山 大亮 様

(作陶風景)



天目掛分鉢
2021年 第55回西部伝統工芸展



天目線文彫壺
2023年 第51回伝統工芸陶芸部会展

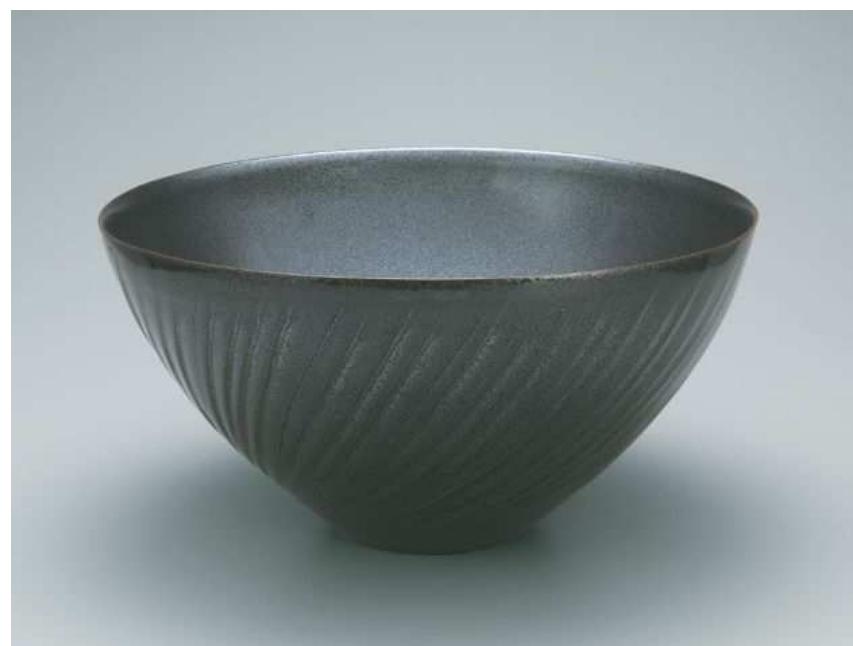


天目線文彫花器 2022 年
第 50 回伝統工芸陶芸部会展 日本セラミックス協会賞



天目線文彫鉢

2023年 第119回有田国際陶磁展 第一位 文部科学大臣賞



天目線文彫鉢

2025年 第72回日本伝統工芸展 入選